

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	OZデイ33しものせき		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月13日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	令和8年 1月13日		～ 令和8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	8年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	卒業後も継続的に支援ができる。	生活介護も含めて多機能型で支援を行っているため切れ目のない支援が可能。特に大きく環境が変わる卒業のタイミングでも慣れ親しんだ落ち着いた環境で過ごすことができる。	継続的な支援を続けていくためのスペースの確保、人員配置を都度検討する。
2	各々の特性に合わせた個別の支援が可能。	保育、看護、リハの専門職を多く配置しそれぞれの目線から個別の課題に対する支援が可能。また、利用定員に対しての人員配置も厚いため個別の対応が可能となっている。	それぞれの職種のスキルアップが望まれるため事業所内外の研修参加やミーティングの機会を持っているよう配慮する。
3	関係機関との連携が積極的に行える。	関係機関との連絡・協力体制が構築されており、個別のケースに対して困ったときに相談や他機関への訪問ができる環境にある。また、担当者会議以外の場面でも情報共有の場を定期的に設けることが出来ている。	今後も関係機関との協力体制を構築すべく合同でのイベント、活動を計画できたらと考えている。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	集団での療育が難しい。	利用定員の規模が少ないため、大集団での療育は難しい。	出来る範囲での集団での療育、活動を取り入れる。また、事業所の特性を活かし様々な年齢の利用者さんとの小集団での活動を今後も継続する。
2	室内のスペースが狭く、余暇を過ごす場所とアクティブに活動する場所、落ち着いて過ごす場所のメリハリがつけにくい。	利用人数の増加や平均年齢の上昇、職員の増加に伴い室内の人口密度が上がっている。	個室の有効活用を検討し、メリハリを以て過ごせるよう支援する。また、事業所の移転も視野に入れている。
3	マニュアルや訓練の実施状況等周知があまりされていない。	マニュアルの掲示や訓練の実施はできているものの、保護者への周知方法が確立できていない。	SNSや広報誌等を利用し、定期的に訓練やマニュアルの内容を発信できるよう検討する。